

	<2025（令和7）年度 事業計画>
事業 の 計 画	特定非営利活動に係る事業 （１）こども・若者とその保護者などに対する相談・支援・居場所の提供・自立に関する情報提供 ①不登校支援 内 容： ・定期的に無料の集中相談会を開催し、寄せられた相談に丁寧な対応を心がけ、次につながることで、特に学齢期のうちに必要な支援につながるように意識していく。 ・特に小学校・中学校・高校との連携を深め、協力して見守り、サポートしていけるような体制づくりに努める。 ・横浜市教育委員会や神奈川県教育委員会が主催する不登校関係の行事にも参加。 ・横浜市子ども支援協議会へ参画し、連携団体と協力していく。 日 時：随時 場 所：横浜市磯子区東町9-9 従 事 数：2 名 受益対象者：青少年および保護者、関係者 利用見込数：120 名 支出見込額：150,000 円 ②新時代の不登校支援フリースペース【Kauri】かうり 内 容： ・フリースペースを開所し、不登校の小・中・高校生世代が安心して過ごせる居場所を運営。 ・保護者からの相談や、学校・関係機関と連携しながら、ひとりひとりの必要に応じたサポートをチームで行う。 日 時：火・水・金 10：00～15：00 場 所：横浜市磯子区東町 9-9 3 階 従 事 数：2 名 受益対象者：小・中・高校生世代 利用見込数：のべ 720 名 支出見込額：792,000 円 ③よこはま南部ユースプラザ（なんぷら） 内 容： ・相談窓口（電話、インターネット、来所）を開設し、困難を抱える若者やその家族の第一的な総合相談を受ける相談室の運営を実施。 ・ひきこもり状態からの回復期にある若者の居場所の運営。 ・社会参加のための社会体験・就労体験のプログラムの実施。 ・横浜市内南部エリア5区の関係機関、区役所との連携及びネットワークづくりのため、南部地域若者支援連絡会を開催。 ・横浜市青少年相談センターおよび、若者サポートステーションの支所的機能を有し、他機関・団体や区との連携を深め、地域に密着した支援を行う。 ・南部エリアの5つの区役所（港南区・磯子区・栄区・金沢区・戸塚区）におけるひきこもり等の困難を抱える若者の専門相談窓口を各区毎月2日開設し、ユースプラザへの繋ぎ、

または他機関紹介やその他の情報提供を行う。地域において青少年とその家族に関する相談に対応し、相談内容に応じ、問題解決に必要な支援を自ら行うほか、専門性が求められる相談については青少年相談センターや横浜市地域若者サポートステーション、行政窓口やその他機関と連携し、適切な支援、サービス提供に繋げていく。

- ・南部エリア5区において、ひきこもり等の困難を抱える若者の理解のための若者支援セミナーと個別相談の開催。

- ・若者支援やなんぶらの取組についてのセミナー、研修会などの依頼を随時受けつけ、横浜市の若者支援の取組についても周知広報を行う。

- ・なんぶら保護者交流会を月に1回開催。保護者同士のピアカウンセリング的ななかかわりと研修を定期的に行っていく。

日 時：月曜日～金曜日 11:00～19:00 土曜日 11:00～19:00（相談のみ）

場 所：横浜市磯子区磯子3-4-23 浜田ビル2 階

従 事 数：9 名

受益対象者：横浜市内に住む 15 歳から 39 歳の若者および保護者、関係者

利用見込数：のべ4,300 名

支出見込額：27,965,000 円

（２）経済的困窮を含めた家庭環境などに課題があり、社会的に困難な状況に置かれたこども・若者の支援

①子ども食堂「250 にこまる＋プラス」

内 容：

- ・こどもたちを取り巻く環境の変化に対応し、家庭環境の課題や社会的に困難な状況に置かれたこどもたちの孤立、孤食、孤独を防ぎ、あたたかい食事が食べられるだけでなく、こども達にとってプラスアルファのある場所をめざしていく。

- ・必要な方へより情報が行き届くよう、オープンディを年4回開催する。

- ・近隣の小学校、中学校、高校に訪問し、必要としている児童生徒がつながるように具体的な連携の形を構築していく。

日 時：毎週金曜日 17:00～19:00

場 所：横浜市磯子区東町9番9号 1 階（にこまる食堂）

従 事 数：2 名

受益対象者：小学生・中学生・高校生世代

利用見込数：のべ960 名

支出見込額：4,600,000 円

（３）こども・若者の自立に関する情報提供

①団体の活動の情報発信

- ・ホームページを相談する人、応援する人、それぞれが見やすいように情報発信し、随時更新し、最新の情報を掲載するよう努める。

- ・Instagramも活用し、より多くの人の目に留まるような情報発信を工夫していく。

日 時：随時

場 所：コロンブスアカデミー事務局

従 事 数：2 名

受益対象者：不登校、ひきこもり状態にある青少年とその家族、地域の関係機関・関係団体など

利用見込数：1,200 名

支出見込額：20,000 円

(4) 地域で子育てを支える場の提供・運営・情報提供

① 親と子のつどいの広場事業 子育てスポットくすくす

内 容：

- ・横浜市補助事業として、乳幼児親子やプレママ・プレパパが気軽に集える居場所を運営。
- ・妊娠期や乳幼児を抱える親の日常的な悩みや不安を解消し、つながれる場、学べる場を作る。
- ・18年目に入り、いつでも来られる・相談できる・安心できる・楽しい場所を引き続き地域とつながりながら作っていく。
- ・土曜日に育児参加促進講座を年18回開催し(10:00~12:00)、出産前から気軽に立ち寄り相談できる場所、パパも気軽に来れる場所として知ってもらう。また、保育園に通い広場に来れなくなった親子ともつながりを持てるようにする。
- ・発達が心配な子や保護者のサポートも丁寧に行い、必要な場合は先輩ママや関係機関に繋ぐようにする。
- ・参加する親子が参加者としてだけでなく、運営を支える当事者として育ち、ママサポーターや講座の講師として「恩送り」をしていくなど、ママたちが活躍できる場を作っていく。
- ・幼稚園座談会・保育園座談会を全3回開催。磯子区、中区の保育・教育コンシェルジュ、先輩ママに来ていただく。
- ・保護者のリフレッシュ、きょうだい児の行事参加、余裕を担保するために、また仕事(短時間)や仕事復帰のための準備が安心してできるように一時預かりを実施。気軽に利用できるための工夫をしていく。
- ・ぽによ+と同じフロアで活動している強みを活かして、協力し合い、小学生との関わりも大事にする(イベントも企画する)。
- ・広場全体会、Cブロック会議、磯子区子育て支援連絡会、いろごひろば連絡会、要対協(地区別関係機関会議)などを通して、地域の関係機関・関係団体との連携をさらに深める。警察署、消防署、幼稚園、保育園などにも講座を依頼し、ママたちにも顔の見える関係を作ってもらう。
- ・子育て支援連絡会主催のイベントに参加するなど、地域の子育て中の親子に広場を知ってもらう。SNSも活用し周知していく。

日 時：月曜日～金曜日 10:00～15:00

場 所：横浜市磯子区東町9-9

従 事 数：5 名

登録見込み組数：85 組

利用見込み組数：1,650 組

一時預かり利用見込み：のべ190 組 670 時間

支出見込額：12,573,000 円

(5) 地域のこどもの居場所の提供・運営

① 金沢区青少年地域活動拠点(カナカツ)

内 容：

- ・横浜市の補助事業として、地域の中・高校生世代の青少年が安心して気軽に集う場や様々な体験交流の場を提供する事を目的とし、地域に根付いた活動拠点を運営する。
- ・1階フリースペース部分では駄菓子販売を行い、地域の中高校生世代が居心地良く過ごせる場を提供する。
- ・週に1~2回、2階をキャンパスカフェ(自習室)として開放し、中高生が落ち着いて学習したり、ゆっくり過ごしたり出来る場を提供する。

・運営委員会を開催し、子ども達と一緒にイベントの準備をし、当日の運営も行っていく。
 ・社会参加プログラム（ボランティア体験・カナカツ美術展等）の実施。
 ・近隣の学校や他団体との連携を積極的に図り、金沢区民まつりいきいきフェスタ等の地域のイベントにも参加する。
 ・地域の会議、南部地域若者支援連絡会などにも出席し、関係機関との連携を深める。
 日 時：火曜日・木曜日 15:00～20:00 土曜日 13:00～18:00
 場 所：横浜市金沢区谷津町 359（すずらん通り商店街内）
 従 事 数：3 名
 受益対象者：地域の中高生世代、地域の方たち
 利用見込数：3,400 名
 支出見込額：6,349,000 円

②磯子区青少年地域活動拠点（イソカツ）

内 容：

・横浜市の補助事業として、地域の中・高校生世代の青少年が安心して気軽に集う場やさまざまな体験交流の場を提供する事を目的とし、地域に根付いた活動拠点を運営する。
 ・運営委員会を開催し、一緒にイベント（イソカツ縁日、イソカツ美術展）の準備をし、当日の運営も行っていく。
 ・社会参加プログラム（ボランティア体験・農業体験等）の実施。
 ・近隣の学校や他団体との連携を積極的に図り、磯子まつり等の地域のイベントにも参加する。
 ・磯子区館長連絡会や南部地域若者支援連絡会などにも出席し、地域での関係機関との連携を深める。
 日 時：水曜日・金曜日 15:00～20:00 土曜日 13:00～18:00
 場 所：横浜市磯子区磯子 3 丁目 4 番地 23 号 浜田ビル 2 階
 従 事 数：3 名
 対 象 者：地域の中高生世代、地域の方たち
 利用見込数：4,200 名
 支出見込額：6,349,000 円

（6）放課後児童健全育成のための学童保育の運営

①放課後ドラマ ぽによ+

内 容：

・自主事業として、「放課後ドラマ おもしろい子（個）を育てる」をテーマに、安全確保が目的のこども預り所ではなく、それぞれの個性を大事に育てていく場にしていく。特に生きづらさを抱えた子や課題を見過ごされていく子に対して、力を注いでいきたいと考えている。
 ・多様な人との関わり、多様な体験を通して、子どもとその保護者の心の免疫力を育む場を目指す。
 ・定期利用の他、一時保育や祝日・夜間・宿泊対応、年中児・年長児の預かり等、保護者も子どもも安心して子育てできる環境を作る。
 ・手作りの昼食・夕食・おやつを提供。毎日の食事を通して、準備や片付けの役割や仲間と食卓を囲む大切さを伝えていく。
 ・学校との連携をより強化し、特に学校やぽによで問題行動がある子に対しては、家庭、学校、ぽによの間での情報共有と、サポートの方向性を揃えていくことに努める。
 ・土曜保育のニーズ減少、スタッフの人員配置調整のことを考慮し、基本開所日を月曜～

金曜日に変更する。緊急的な土日、祝日対応については引き続き継続していき、必要性があり、ぽいよで出来る支援については変わらず実施していく。

日 時：終日（必要に応じて対応）

場 所：横浜市磯子区東町 9-9 K2 ビル 2 階

従 事 数：6 名

受益対象者：横浜市内の年中児～小学生

登録見込数：83 名

利用見込数：のべ 10,234 名

支出見込額：26,000,000 円

（７）障害福祉サービス事業

①就労継続支援 B 型事業所 フェロップ/コッペパンハウス「パン屋のオヤジ」
NPO 法人ヒューマンフェローシップが 2010 年 2 月 1 日に開所、2025 年度より
NPO 法人コロンブスアカデミーへ事業譲渡。

内 容：

- ・定員 40 名の受け入れ
- ・就労、また就労を継続していくために必要な事をメンバーに合わせて目標を立て支援。
- ・手先を使うワークや体を使うワークなど様々な種類のワークを行う事でそれぞれの得意な事や配慮が必要な事を把握し支援を行う。
- ・根岸駅前や小学校のプール清掃などを通して地域への貢献活動を行う。
- ・希望者には体力づくりや健康促進を促せるようなアクティビティを取り入れる
- ・就労の見通しが立った利用者については就職に向けて必要な事を支援していく。
- ・雇用されて終わりではなく、その後働き続けることが大切だと考えているため半年の定着支援を行い、その後も安心して働いていけるよう必要に応じて相談機関につなげる。

日 時：月～土 7:00～18:00

場 所：フェロップ 横浜市磯子区東町 18-10 1F
コッペパンハウス「パン屋のオヤジ」 横浜市磯子区西町 14-3-105

従 事 数：9 名

受益対象者：知的障がい、精神障がい者、発達障がい者（定員 40 名）

利用見込数：のべ 9,600 名

支出見込額：30,238,836 円

②指定共同生活援助事業所 ヒューハウス/ヒューハウスサテライト
NPO 法人ヒューマンフェローシップが 2007 年 2 月 1 日に開所、2025 年度より
NPO 法人コロンブスアカデミーへ事業譲渡。

内 容：

- ・自立した生活を行えるように支援を行う。
- ・地域清掃や行事へ参加をし地域交流を行う。
- ・メンバーとのミーティングを通じて、困りごとなどを話し合いお互い助け合いながら生活していけるように協力していく。

日 時：通年

場 所：ヒューハウス：横浜市磯子区中浜町 19-9
サテライト：横浜市磯子区中浜町 5-13 ハウスサンライズ 101、202

従 事 数：4 名

受益対象者：知的障がい・精神障がい・発達障がい者対象

定 員：8 名（ヒューハウス 6 名、サテライト 2 名）

利用見込数：のべ 2,920 名
支出見込額：12,047,900 円

(8) 就労支援事業

①土チャレンジプログラム（土プロ）

内 容：

・にこまるソーシャルファームにて野菜、果物等を育てながら自然と触れ合う体験を通して、生活リズムを整え、日中活動を行うための体力をつける。その後必要に応じて他の日中活動先につなげる。

日 時：通年

場 所：にこまるソーシャルファーム

従 事 数：常勤兼務 2 名

受益対象者：一般就労が困難な若者

利用見込数：のべ 1200 名

支出見込額：120,000 円

②ジョブトレ（OJT）

内 容：

・働くことに対する意欲や責任感の増長を支える「有給職業訓練システム」をより充実させ中間的就労支援の重要性の理解、啓発に努める。インターンシップ、有給職業訓練を始め、ジョブトレの実習受け入れ先企業開拓とステップアップのプログラムの構築に力を入れ、就労支援費として働くことの対価を受ける喜び、責任をより豊かなジョブトレを利用者に提供する。

日 時：通年

場 所：横浜市

従 事 数：常勤兼務 2 名

受益対象者：一般就労が困難な若者

利用見込数：のべ 720 名

支出見込額：120,000 円